

「藤樹かるた」の紹介②

(企画広報委員会)

(はじめに)

高島市の郷土の先哲として敬愛する中江藤樹先生の生誕から四〇〇年を迎えます。

先生の尊い学徳や生き方は、この長きにわたつてもなお、多くの人に継承され、今の教育にも生かされています。

今回、先生の生誕四〇〇年を迎えるに当たって協賛事業として「藤樹かるた」改訂版を作成しました。藤樹かるたは昭和五十八年三月に安曇川町教育委員会から刊行され、長く親しまれてきましたが、すでに絶版となっていましたので、この四百年祭を機に改訂版として、二十五年ぶりに再び刊行することができました。

小学生や幼児の皆さんにも親しまれる絵柄、よく理解していただける内容にと心がけて改訂いたしました。

このかるたで楽しく遊んでもらうことで先生の学徳や求道の生涯の一端にふれていただくことを心から願っております。

平成二〇年(二〇〇八年)三月

藤樹かるた制作委員会



(かるたと解説)

り 良知を知り 行い正し 徳を積む

致良知、良知に致るは、心を修める根本である。藤樹先生は、人はずももって生まれた良知磨き、良知の命ずるままに行いを正し、徳を積むことが大切であると考え、自らもこの通りに努力された。



ぬ 盗人も 与右衛門と聞き 改める

ある夜、となり村から帰る途中、数人の追いはぎに襲われた藤樹先生(与右衛門)は、賊に対して、互いに名を名乗ろうと言った。先生がまず名乗ると、賊はその名前を聞いてたいへん驚き、もう二度とこのような悪いことはしませんと謝った。



る 留守の間に 何も告げずに 酒三升

大洲を脱藩して小川村に帰ってきた藤樹先生は、生活のために酒を売ることにし、門人たちと勉強中は無人販売をされた。鴨祭りの日にござわらじにがまはばき(※)の見知らぬ人が酒三升を代金も支払わずに持ち帰ってしまった。先生は、このことを売上帳に書いておられる。この人はまもなく代金を払いに来て、謝っている。(売上帳には「ござわらじにがまはばき 知らぬお方に酒三升しかもその日はかも祭り」と記されている。)



※「ござわらじにがまはばき」

- ・ ござわらじ…紐を通す輪と紐を布で作ったわら草履
- ・ がまはばき…膝下を保護するガマ製の巻物(膝を巻く物)

わ 若いころ 孔子さまだと からかわれ

藤樹先生が二十二歳の時、ある友だちの家へ行くと、同じ大洲藩に仕える荒木という武士が来ていて「孔子さまが来られた」と大きな声でひやかした。先生は、わたしが学問に励むことをばかにして言ったのであるろうと思われ、ひどく立腹して厳しく注意された。

